

平成 29 年度第 2 回天守復興部会会議録

日時：平成 29 年 6 月 9 日（金）13：30～

会場：県伝統工芸館地下会議室

出席委員：伊東（龍）委員、今村委員、谷崎委員、富田委員、永田委員、西村委員、西嶋委員、毛利委員、

オブザーバー：平井委員長

熊本城総合事務所：津曲所長、野本副所長、濱田副所長、古賀技術主幹

熊本城調査研究センター：網田副所長、美濃口主幹兼主査

1 開会

2 熊本城総合事務所長 挨拶

津曲所長	<p>本日はお忙しい中ご参加いただきありがとうございます。</p> <p>本日の部会は、前回 4 月 17 日に開催された部会に引き続き、第 2 回となります。</p> <p>前回の部会では、耐震化・バリアフリー化・ユニバーサルデザイン・大小天守展示の刷新等について皆様方からご意見をいただいております。</p> <p>本日はより具体的な案を私どもから提示させていただきたいと思っております。</p> <p>ご承知の通り、復興のシンボルである天守につきましては、2019 年には何らかの復旧した姿をお見せするというところで、私どもも事業を進めているわけがございます。現在は躯体・外装などの復旧を進めているところがございますし、今後展示・耐震化についても検討していく必要がございます。さらに今回、市議会の 6 月議会が行われております。その中で補正予算案といたしまして、展示に関します基本設計の予算を提案させていただいているところでございます。前回及び今回以降天守復興部会でのご意見を踏まえながら今後の展示の基本設計に取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>本日は、主に展示に関する審議となります。委員のみなさまにはご意見をいただければと思っております。どうかよろしく願います。</p>
------	---

3 審議事項

(1) 熊本城天守閣復旧整備事業（展示）について（資料 1）

・ 前回部会の概要と周辺施設との連携・補完などについて事務局より説明

西嶋委員	<p>前回の部会長総括に「市としてのスタンスを」ということですが、熊本城の利活用は、お城が公開されることによって歴史体験を様々な方にさせていただくことができているということが最大の利活用ではないかとかねがね申し上げている。展示もその一環で、部会長が総括で言われた「スタンス」という話だが、熊本城でどういう歴史体験をしていただくのかというマスタープラン・全体像というものがあって、その中で、展示についてはこのような機能があって、この部分をしっかり伝えとか、現場の遺構においては展示がどのように関連付けられたり、回遊ルートになっていたり、またその現場から展示、展示から現場というようにバトンタッチされるものもあると思う。それから、今回被災したことによって、被災した現場というものも長い時間をかけて修復・復興・復旧していくということは、それとの関連も当然展示に出てくる。全体を統括するものがあって、どのような体験を公開していくかという全体像もあった中でこの展示が活かされるという構図なので、それが市のスタンスかと推測したが。そのようなマスタープランの検討はこれまでされてきたのか。どうしても熊本城の利活用は、使わせる・使わせないの話ばかりで、本質的な歴史を、お城をどう体験していただくのかということの検討が過去にあったのだろうかと思うのだが。</p>
伊東部会長	<p>前回の話では少し表現が違ったかもしれないが、業者の提案の言いなりにならないで、市の独自のやり方、ここで話し合うならここで話し合ったことをきちんと展示に活かすということでやりましょうということであったと思う。しかし今ご指摘いただいたような本質的問題も非常に大事な問題なので、何かあればぜひコメントをいただければと思う。</p>
事務局	<p>今の状況は、全体での活用がまだ見えていない。今我々がさかんに検討しているのは段階的な公開で、まずは活用というよりも公開をどのようにしていくかということに力を注いでいる。その中で、委員のご指摘にあったように、そういう公開をしながらも、建物の中の展示のあり方というものは当然勉強していかないといけないと思う。今後、復旧が長年かかるのであれば、今後どのように活用していくかを復旧に合わせて考えていかないといけないと思う。長くなるということは見直しもどんどんかけていかないといけないと思う。今回のターゲットとしては天守閣の展示。当面天守閣を早期復旧するという方針を出させていただいている。その中でまず公開できるとすれば天守閣になるかと思う。その中で天守の展示というのは、大きな問題であるというのは承知しているが、今回は天守閣に絞らせていただき、その中で地震というものも入れながら、将来的にはもう一回見直しという時期が来ると思っている。その時にまた改めて検討しない</p>

	といけないと考えている。
谷崎委員	展示のコンセプトがいるということを感じている。名古屋を中心にお城をそれぞれ見てきたが、展示物を見てもあまり面白くない。面白いことに意味があるのではなく歴史を見ることが大事なのでしょうから、その意味としてコンセプトとして、「歴史の蘇り、時代の蘇り」と考えている。NHKで放映されたタモリさんの番組で、お城を見たときにテレビの映像を通してだがすごくワクワクした。そういう意味では、加藤時代の築城の苦勞の部分や、あるいはそれを守っていった細川時代の苦難の部分、あるいは西南戦争の劇的な戦跡、それが展示の中で蘇るようなものにできたらと。今お話にもあったが、その展示を見て実際今度は下に降りて、それぞれの戦跡あるいはお城にある色々なところを見ている中で、お城そのものの魅力を感じとっていただくというようなことにしたらどうだろうか。それぞれのお城を見ながら、熊本城はこのようにあってほしいという思いで言ったが、そういう意味での何かコンセプトというものが一つほしい。
今村委員	天守閣内部の展示ということでは、従来の時系列的な展示があるが、こういう展示を災害のあった時期に復旧する天守の中で、歴史上の流れの体験だけを全部本当にやるのか。逆にこのような機会だから、天守の中は鉄筋だから考え方を変えてはどうか。実は先だって岡山城が天守の中で会議をしたと聞きました。熊本城も何かそういう活用も考えていけないのかなという気がして提案をしている。天守閣は現在博物館相当施設ではないですよ。それならば、そういう展示の方法というのも従来の方法ではなくて、コンパクトでわかりやすい。本物やそういうものは博物館とか天守閣周辺の施設で展示されているから。それと西南の役の中でも、実際の資料等は田原坂にもある。だから実際そのような展示物だけではなく、そういう体験も含めたところで、熊本城とその周辺の施設をというふうを考えていくことも必要ではないかと思う。
事務局	まず谷崎委員からご指摘いただいたコンセプトについては、今回のこの部会でもご意見いただきながら、考えていきたいと思っている。 今村委員からご指摘いただいた内容については、資料1にありますように湧々座で、まず復興であつたり歴史を体験したりする施設であり、湧々座と天守閣の来場者がそれぞれ歴史空間を体感できる復元櫓に行っていたり、実物展示を行っている施設に行ってくださいような解説をしながら、本格的に展示するのではなく、そちらに行くような提案を表で示させていただきます。
事務局	今申しあげました通りでございまして、今まで周辺の関連施設の中に、このような本物の展示があることすら知らない方が今までおられたらうと

	<p>感じている。今回大きく天守閣が変わっていくので、その期間に合わせて周辺関連施設も生きて行くようなやり方が必要であるというのは、市の内部でも思っており、委員の方からいただいたご意見も認識している。いかに他の重要な施設、本物を見ることができる施設に、天守に来ていただいた方や湧々座に来ていただいた方を上手に誘導していけるかというのが、一番大事なところだともう一つの面で思っている。天守閣の展示内容を決める一方で、各施設のコンセプトをそれぞれどのように思い、どのような役割を持たせていくかということまで含めて考えていかないと、天守閣の中身の展示が決まっていけないと考えている。そのため、皆さんの意見を本日いただき、次の段階で少しずつ具体的な話ができればと思っている。今日いただいたご意見と、庁内でも協議を深めて天守展示のコンセプトと各施設のコンセプトをしっかり出していきたいと考えている。</p>
平井委員長	<p>湧々座と天守の中身はだぶらない方が良いと思う。展示内容の中の熊本城の歴史紹介は湧々座でだいたいわかるから、天守ではいらぬという気がする。熊本城天守の歴史は確かに必要だが、「熊本城の天守が日本の天守の中でどういう位置づけがされているのか」というのは一緒にここで説明しておいてほしい。あまりにも熊本城だけに限定されているので、熊本城全体で「日本のお城の中でどういう位置づけなのか」というのは是非やってほしい。このような価値があるということは、熊本城の歴史だけの話じゃないと思う。日本のお城としての位置づけを。</p> <p>もう一つがターゲットの方で、「こういうことが知りたい人はこういう館に行きなさい」、というようなガイダンスをきちんとやってほしい。ほとんどの人が登るのだったら是非やってほしい。</p>
事務局	<p>私どもの中では、「日本のお城の中で熊本城の天守閣はどういう位置づけか」という部分は、考えとしては抜けていた部分だと思う。いただいたご意見をどうしていくか内部で決め、次の機会にご説明が出来るようにしたいと思う。それから、ガイダンスの役目というのは湧々座にも持たせたいというのがありましたが、ご指摘の通り「天守閣の方にはほぼ全ての皆様がおいでになるのであれば」というご意見もありますので、湧々座との住み分けをどうしていくかも必要と思っているので、両方の役目をもう少し慎重に考えてご相談できればと思う。</p>
毛利委員	<p>天守閣の展示についてはいろいろ考えてきたことがありまして、新しく展示方法を変更するということでもありますので、関連施設となるべくだぶっていないような展示をしようとするのもそうだと思いますし、「熊本城がどのような立地でできているのか」、「どういう目的でできているのか」、そういうことも体験ができるといいけれどもなかなか体験できないので、見た</p>

	<p>目で、あるいは触って、あるいは展示したものが動いたりするような形で、これまでの展示とはかなり違うなということができたらいと思う。具体的な考えとして、今まであった模型に少し手を加えていただき、新しい視点からこれを作ると良いのでは。具体的には熊本城の本丸から西出丸・二の丸・三の丸・段山の方にかけて、西向きに段差のある茶臼山に造られた熊本城であるというのが一目でわかるようなもので、城下町を含めた熊本城の六つのゾーンがどのような役割をしているのか、どういう位置づけでこのゾーンがあるのか、ということも模型の中で活かされたらいと思う。特に、惣構の城下町の高麗門、それから、新三丁目御門という大きな、南大手門にも匹敵するような櫓門がある、ということも含めた模型ができたらいと思う。そして動いたらいいというのは、例えば奉行丸の役所で仕事をしている人たちの人形が置かれたり、城内を薩摩藩が通る様子とか、そのようなものを人形で小さく作って、その人形が動きはじめるという、今までにない展示が出来ると思っている。</p> <p>いずれにしても、「熊本城というお城がどういうお城であったのか」、熊本城に来ているお客様が、「熊本城がこういう目的で作られ、こういう位置づけにあるんだ」と、熊本城のスケールがわかるような展示にさせていただきたいと思う。</p>
事務局	<p>委員の方から具体的な提案をいくつかいただきましたので、よろしければ資料2の説明を先にさせていただいて、また具体的なご意見をいただくということでもよろしいですか。</p>
平井委員長	<p>大事なことを言い忘れていたので追加させていただきますが、来場者の中の視覚障がいの方に、どうやって展示内容を知らせるかということ、もう少し真剣に考えてほしい。聴覚だとか他の障がいの方はそれほど展示内容を理解するのに困らないと思うが、視覚障がい者だけは非常に理解しにくい。江戸東京博物館は一部分の模型は触っていいような模型にしてある。触って、大きさは違うが、ここにこのような加工をしているというのが触ってみられる模型も同時に展示している。例えば、天守閣に登って来たはいいけれども全体がどういう格好をしているかわからないので、天守閣に触ってみればわかるわけですから、小さくていいので、触れる模型を一緒に作っておいていただきたい。</p>
伊東部会長	<p>それでは、次に移りたいと思いますが、資料1で私も若干表がわかりにくい部分があり、天守と湧々座では似たようなところがあり、他の館は少し専門的に館の特徴を持っているということがわかる。しかし、その湧々座と天守のところが住み分けという言葉もあるが、どちらがどのような展示をするのかをはっきりさせていけば魅力につながり、それを洗練させてい</p>

	くことによって展示のコンセプトみたいなものはっきりし、マスタープランというものにも一層近づくことにもなると思うので、湧々座との重複も避けるということが必要ではないかと。具体的なご指摘もいただいたので、それも検討いただければと思う。
--	---

(2) 熊本城展示たたき台について

- ・熊本城天守における展示内容について、概要を事務局より説明

今村委員	これらの各展示物を、天守閣の地下1階から6階までであるが、どの階に展示を考えているのか。
事務局	現在資料2において、具体的な階層はあえて書いていない。あくまでも項目として案を列挙したということで、何階にこれということは現在決めていない。この会議の場で、緩急のつけ方や、重きの置き方等も含めてご審議いただければと思っている。今までの展示の面積からして1階と2階と3階が主だったということは皆さまもよくご存知かと思うが、参考資料として、一番最後の平面図（【参考】熊本城天守閣平面図）、地下1階～6階の平面図をつけている。
永田委員	イメージとして、天守閣に何人ぐらい入って、滞在時間がどのくらいなのか。盛りだくさんすぎて、滞在時間が長すぎてもいけないだろう。ポイントを絞らないといけないと思うが、だいたいどのくらいという考えはあるのか。
事務局	入場者数等については、他の城郭でも調査が行われており、繁忙期と閑散期のシミュレーションがされている。それで、例えば入場規制や避難経路、各所に映像コーナーを出すのであれば滞留するスペースに何分間立ち止まるなどが出てくると思う。そのあたりは予め設計の中でシミュレーションしておく必要があるかと考えている。ご指摘の通り調査項目として考えておかないと、実際オープンしてから運営段階になって色々問題が生じるといけないため、予め考えていく必要がある。今日のところは何階にこれというような提案はしていないが、まず天守に必要か不要か、大きな話からはじめ、部会を重ねる中で、少しずつ具体的になっていくのではないかと考えている。
伊東部会長	資料の最後につけていただいた天守閣平面図というものがあるが、これは新しく工事が完了すれば出来上がる天守の平面図でいいか。これも真ん中にエレベーターが通った状態の平面図であり、展示スペースとして考えられるのがこの各階の平面図の中のクリーム色に塗られた部分が展示スペースとして使用できる部分ということの色分けとなるか。
事務局	耐震等、引き続き設計を進めているので、動線については今後設計の中で

	同時に考えていく必要があると考えている。ただ、展示スペースは基本的にクリーム色の部分とご理解いただければと思う。
西村委員	資料2の上の方で、軍政時代というものが記載されているが、軍政時代の模型があればありがたい。例えば第六師団司令部がどこ、あるいは軍病院がどこ、火薬庫がどこ、それから色々な軍施設があるが、何とか大将の戦勝の碑がここにある等。たくさんあるが、終戦時の施設の資料は散在されているのかもしれないが。資料としては、自衛隊の方で残っているかもしれない。もしそういう資料があったら軍政時代の模型を残しておいていただきたいと思う。戦争遺構も一つの史跡として、今あちらこちらで話題になっている。人吉の飛行場や天草の飛行場、菊池の飛行場、城南町の飛行場、色々な意味で戦争遺構を残そうという運動がある。その中で熊本城は最たる第六師団の師団本部であり、聞くところによるとお城全体を統治下にしようという意見があったようで、中を蟻の巣のように縦横無尽に掘っていたと現役の兵隊さんたちから以前聞いたことがあった。もうその方たちも90から95、あるいは100に近い人がまだ数名おられる。もし調査ができれば。自衛隊なり郷土史で戦争遺跡も貴重な熊本城の歴史の一端であると思うので、わかる範囲で残していただければありがたい。
谷崎委員	熊本城に入って、観光客の方やビギナーの方を考えた時に、何を期待するかというと、「熊本城の中はどうなっているのだろう」という期待がある。入っていきなり展示という話より、「熊本城はどういう風にお城が使われていたのか」ということに興味がある。小さい頃、入って色々な展示があったことにショックを受けた。「ここはお城の中だろうか」、博物館の中だと思った。要するに「お城の生活がどうだったのか」ということに興味があって。ほとんどのお城では大広間があり、殿様が執務をするような謁見をするような場所もあったが。本丸御殿はそのイメージでいうと非常にわくわく感があり、ここで食事が作られて、ここで謁見して、ここで待機していたというのがわかる構図になっている。あのようなものがいくらかあったらありがたいと思う。もちろん展示というのも、これだけの建物だからそれなりにスペースを使うことはいいが、何かお城に入ったときの、先ほども言ったコンセプトというか、時代が蘇るといえるか、お城の築城当時、あるいはその後の増築された当時のものが、何か残ったらいいと思う。例えば宇土櫓の方は、それがそのまま見られる等。それか小天守の方ではそれが見られる等、そういう特徴的なものが備えられたらいい。そうすると宇土櫓に行く人もいて、小天守の方にも行くようになるのではないかな。その住み分けをしたらいいと思う。
今村委員	城彩苑を作る時、熊本城と城彩苑の住み分けは、城彩苑はあくまで熊本城

	へ入る時の導入口、つまり「色々な熊本城の知識をあそこで一度得て、それから入る」ということで、そこにあの施設を作ったはず。だがそのような施設が今回はこの対照表だと同じようなもの。出来てから従来してきたことと若干異なるから、それはちょっとどうかと聞きたい。
事務局	確かに湧々座を作る時には、湧々座はエントランスゾーンということで「熊本城をご覧いただく前にガイダンス的にご理解をいただいた上で城内に入って各施設へ」というような位置づけだった。今回、湧々座自体の見直しも考え、関係している部署とも十分住み分けをしながら進めていく考えでいる。いずれにしても、この資料にあるように、湧々座は全体的な総合案内的な施設として示させていただいており、実物を見る施設に誘導していくという考えで整理させていただいている。それに加え、天守閣の中でも観光客の方全てがそのような理想的な経路をたどるとは思わないので、やはり天守閣の中でもある程度の概略の説明はいると思っている。詳しい説明は各施設ですとして、連携という観点では、主になるところで従になるところの情報もある程度必要ではないかと思っている。いずれにしても当面のことも考え、湧々座とのすみ分けがキーになるということで、庁内でも関係課との調整の打ち合わせを引き続き実施することになっている。加えて、湧々座も内容を変えないといけないという事情もある。そのようなことを踏まえ、このようなすみ分けの中で進めると思っていたら。
富田委員	これまで博物館の分館として何度か天守閣の中の展示を変えているが、その時のこういう展示替えの目的は、いかに観覧者を流すか。ですから今、天守の中での展示をずっとお話されているが、ここで説明を読むような滞留するところがあると、特に今度はエレベーターが入ってくると、上の方に行く時に溜まるのではないかという気がする。中の方の展示も少し余裕をみておいたほうが将来的に良いと思う。
毛利委員	先ほど資料2のところの説明いただいた、穴倉にふさわしい雰囲気と展示内容という説明があった。熊本城の天守に行く時に、闇通路を通って行く時にわくわくしたりドキドキしたりという思いもしたし、お客様をご案内するときにそのようなことを聞いた。やはり、暗いところや穴倉というのはミステリアスなところがあるので、ぜひ大天守・小天守などの役割という観点からみても、進めていただければありがたいと思う。
平井委員長	今までうかがっていて色々工夫しているのはわかる。ハード面はかなりよくわかるが、ソフト面についてあまり説明がないのが非常に残念だと思う。資料の細川時代のところに、「江戸時代の天守の役割・儀礼・登城ルート、部屋の名前と収納された物」とあるが、その部分だけがそれに関わるような気がするが、そうではなくてそれ以上に、後の方の時代になれば殿様は

	<p>城の外側に住んでいて、本丸御殿には休んでいないはずだから、そういうときにはちょっと難儀が出てくると思うが、天守閣に入ってくるのは本丸御殿の廊下が確か続いていた。それを「どのように使っていたのか」、天守へ殿様が来るのに、本丸御殿から「殿様はここからこのように入ってくる」ということも説明してほしいし、天守の方にも座敷系統のものが確かある。平面図を見ると色々な部屋の名前がついているはずだから、そういう部屋がどう使われたのか。「殿様はどこから入りどう使ったのか」というようなことを。記録の方を探すのは大変かもしれない。古いほうの記録はなかなかないのだろうと思うが。江戸時代の終わりのほうになったら、天守閣はもう何の役にも立ってないのかもしれないという記録もはっきり出てくるのかもしれない。大天守の一番上が「上段の間」だったが、これはどういう使われ方をするために上段の間があるのかということも説明していただかないと、あったというだけでは何であるのかわからない。どう使ったかもわからない。それでは困るので、それらもできるだけ探っていただきたい。ソフト面をもうちょっと考えてほしい。</p>
伊東部会長	<p>平井委員長に言っていたことは、他のお城だとやはり同じような問題があり、ぜひ知りたいけれどもなかなかわからないところでもある。熊本城は永青文庫等もあり、きちんとした資料が多くあるお城なので、どこまでわかるか。永青文庫に色々お尋ねしてみると私がお尋ねしたことに対しては、答えがすぐ返ってくるので、かなり色々なことがわかるのではないかなと思って、楽しみにしているところでもある。私も建築なのでつい気になるが、平井委員長ご指摘のところ、「熊本城天守の歴史の中で熊本城の天守はどういうものであったのか」、「お城の歴史の中で熊本城はどういう位置づけだったのか」ということを、この時代順の展示の中でどういうふうに話すのかという点を工夫していただければありがたい。こういうのとは別に、「熊本城の天守はこういうもの、お城そのものはこうだ」というように話をしなければいけないのか、うまくこの時代の流れの中に盛り込めれば良いのかと思った。先ほど、毛利先生から穴倉が非常に魅力的だ、この展示は良いという話をうかがい、天守閣の建物そのものは鉄筋コンクリートだが、天守台石垣は外側も含めて本物が残っているので、できるだけ本物が見えるというのがいいと思う。これはまだ少し文化財修復検討部会の方でも検討している。天守台内部や近くの石垣が崩れている状態なので、見学者に危険がない形でどのように見せるのかというのが大きなテーマになっている。そこは修復がどういうふうに進行していくのかということにも関連して、穴倉に関する展示については変わらしている。</p>
今村委員	平井委員長、1階は鉄砲の間で、2階が確か具足、3階が矢の間、4階が

	<p>弁当の間ですか、5階が貝の間。そのような階層のそれぞれの内装というものをどこかの階の一つぐらい復元的な内装というものはできないものか。</p>
平井委員長	<p>西南戦争で焼ける前まではあったから、しようと思えばできるでしょう。</p>
今村委員	<p>5階のうちの1階ぐらいはそのような本来の天守内部、九間に確か分かれていたと思うが、そのようなものをきちんと表現して、そしてその中に展示をするとだいぶ雰囲気が変わり、本来の天守のあり方というものもわかってくるのではないかと思う。</p>
平井委員長	<p>天守閣の中のどこかで、実物大でそのままというのは無理だろうけど。</p>
西嶋委員	<p>ここは天守復興部会だが、今日のような議論を委員会で展開することがなかなかないから、少し話をしていただきたい。「どのように熊本城を体験していただくのか」、「どのように紹介するのか」、「どのように見せるのか」ということを、われわれはしっかり考える必要がある。今回の地震によって奇しくもそのことが一つの大きなテーマとして浮かび上がってきているようだ。今日は天守復興部会だが、もしかしたら委員会の中で、やはりそのようなテーマをきちんとやるところが必要なかもしれない。</p> <p>それから、資料2の上の方で、これまでは展示ストーリーとして西南の役までをメインに伝えてきたと。これからは、明治から今日までをさらに伝えるということが大きい。今回の地震によって加わったら。そうなるかと、例えば先ほど医学校・洋学校のことが出てきたが、「ジェーンズ邸はどのようにするか」と、今いろんな場所に移そうかという議論があっているようですが、そういう熊本の近代の歴史との整合性みたいなものをきちんとつけていかないと、来訪者から笑われる。それから、軍の施設の遺構の話が出ているが、城彩苑の下には明治のレンガの遺構が一部のトレンチ調査にもかかわらず相当残っていた。分厚い報告書が出されている。そういうものは熊本の近代の歴史を市民に紹介していくときに、どう説明するのか、活かすのか。あれを壊さないように盛り土をして今の施設が作られているわけだが、これまであまりにも近代というものに光があたってこなかったことが、今回奇しくも地震によって、これまでの歩みをきちんと伝える必要があると。400年ですね、そのような意味では相当な転換点に立たされていると思うので、他の所で語られている熊本の近代に関することと矛盾や捻じ曲げが起こらないようにしないと、恥ずかしいことになるかと危惧している。そういうことも含め、しっかり押さえ、それぞれの場で整合性のある中でその展示や遺構、各施設の連携を深めていただければと思う。</p>
伊東部会長	<p>非常に大事な指摘で、近代の遺構のことも一つ一つ煮詰めていかななくては</p>

	いけない。それが最初にあったマスタープランのようなものに関わってくると思う。
毛利委員	<p>時代ごとに色々展示をする中の西南戦争について、西南戦争の展示は田原坂の展示を含めてあるが、エピソード等色々なものが紹介してあると。熊本城に入って加藤期の築城の時から時代の流れ、西南戦争では熊本城ではどういうことが起きていたのか。そういったエピソードを、写真なり説明文を入れると、熊本城に来る方に「西南戦争があった時には熊本城で何が起きていたか」、「どういっただエピソードがあったのか」、見せていただくといいのではないかなと思う。</p> <p>具体的には「熊本城の司令部隊長の谷干城、児玉源太郎と乃木希典がここで一緒に寝泊りをし、乃木希典が軍隊旗の紛失で自決しようとしたときに児玉源太郎が止めた」等は有名な話。よくその話を熊本に来た方からも聞く。そういったことが熊本城の中の鎮台で起きていたというようなことを。西南戦争については色々なエピソードがあると思うので、そういうこともぜひ目で見られるようなものにしていただくと、この時代としての熊本城が生きてくるのではないかなと思う。</p>
谷崎委員	<p>経済界としては、天守閣の復興というのは2019年に何とか目指したいということでございました。これはその年にラグビーのワールドカップや世界ハンドボール選手権大会と、外国からおみえになる方々がいらっしゃる。そういう方々に、「まさしく熊本の象徴である熊本城をご覧いただきたい、その素晴らしさを感じていただきたい」という思いがある。そういう意味では、先ほどソフト面の話も出たが、外国の方にもわかるようにパンフレットも含めて中の展示についても心がけていただきたいと思う。それと先ほど目をご不自由な方に対する展示というのも考えていただきたいというのもあったが、まさにその通りでユニバーサルデザインはそういったところと思う。もう一つ、子どもにもわかる展示というのもお願いしたい。展示物が高いところにあると見えないし、子どもでもわかる平易な案内をお願いしたい。長く色々なことが書かれていると、子どもは飽きてしまうから、目で見える、デジタルを使う等。視覚障がい者の方には、立体的なもので何か触れるものを用意するというのはどうか。名古屋城では天守の一番上にある瓦の実物大の展示をしてあったが、そのような形で、いかに大きなものであるかということを感じとっていただくような展示も楽しめるのではないかなと思う。</p>
事務局	ソフト面ということで、例えば何ヶ国語の表記で展示をご紹介するか、ユニバーサルデザイン等もあったが、このような展示を考えていく際は、一般的にこれから基本設計その後実施設計という流れになっていく。どうし

でも色々なところで客観的な調査データを揃えていく必要があると思うので、今後來場者の分析や避難誘導、身障者や高齢者の対応、行列等滞留のシミュレーション、情報システム、警備システム、室内の環境管理、そういったところも検討して、今後実際に反映できるようにしたいと思う。

それから、今日お配りした資料については、今後も継続して皆様に議論をお願いすることになると思いますので、少し情報提供といいますか、お配りした別紙1の補足説明をさせていただく。

別紙1の表作成の趣旨は、熊本城天守の展示がいかにあるべきかという本題をご協議いただくのに先立って、天守を取り巻く多数の周辺施設をまとめたものである。皆様すでにご存知の施設ばかりだと思うが、天守展示の役割分担について協議いただくために作成した。表には設置目的、展示内容、特徴、運営主体などをまとめている。一番筆頭にあげているのが大小天守であり、外観復元された昭和35年当時、唯一のものである。天守閣は博物館分館ということで長年管理され、陳列資料が多かったことと思うが、その後、周辺環境としてこれほど多くの施設ができて、多様化、いろいろなニーズにこたえているという形ではないかと思う。昭和51年の県立美術館本館以下、オープンの年代順に列挙して、主なものでもこちらに12の施設をあげている。従って、再建された当時は天守一つで担っていた役割は、展示も含めて、その後博物館ができたり美術館ができたり、さまざまな形で多様化していき、社会的なニーズや果たすべき役割は変わってきたかと。今まで博物館分館だったので、実物資料も多く展示しており、いわゆる博物館なので教育委員会で管理していたが、今度からは観光文化施設といったことになると思いますので、管理上も役割も大きく変わってくる。そこでレプリカや映像等が増えるのであれば、より湧々座との補完関係等が焦点になってくるだろうという資料が、この別紙1である。もう一つ資料2は、今日これをたたき台にさせていただきながら、様々なご意見を展示に関していただいた。誤解がないように申し上げておきたいが、これを全て出したいということではない。あくまでもたたき台と書いているように、今日話し合ってください材料として、具体的に言うところいう資料があるので、展示をしようと思ったらこういう準備があるということ。その料理の仕方についても、文献専門の職員もいるので、この絵図だったらこの出し方がいいのか、デジタルで高精細で出せるのではないかと、登城ルートを体験的に演出すると展示手法として面白い等、手元にアイデアはあり、ソフト面も考えているが、これらを全て出したいということではない。むしろこれから工事もあり、面積も限りがあるため、これもあれも盛り込みたいという話になると展示の足し算になってしまい、物理的に入らないかもし

	<p>れない。あくまで、天守があの場所にあることが大事という場所性というか、あの展望の高さであるとか、穴倉であるとか、場所は本物なので。外観復元ですけど、大事なのはその場所性ということ。もう一つはこれだけ周辺に多くの施設が出来た今日、重複するような展示を多く出すということではなく、補完関係を持って、足し算ではなく引き算の作業も意識しないといけないと思っている。これを出した方がいいのではというご意見と同時に、むしろこれは要らないのではないかという引き算のご意見もいただけると、整理ができると思っている。</p>
事務局	<p>今の話でございますが、資料1の下の表が非常にわかりづらいという話しが最初に先生からもあり、申し訳ないと思う。先ほど、緩急のつけ方という話が出たが、この3つのストーリーに5つのストーリーを加えるということになる。但し、展示スペースは限られてくるので、資料表中に丸と小さな点がありますけれども、今の時点での事務局の考え方では、メインにやりたいのはどちらかという大きな丸の方であって、小さな点の方は小規模展示という書き方にしている。緩急でいうと緩めの少し小規模の流れがわかるぐらいの展示しか難しいかなというところでこの表を作らせていただいている。その中でも、いくらやらないといっても軍施設時代のこれだけは必要だ等のご意見があれば活かしていけると思う。先ほども述べたように、あれもこれもということになると、今後の進め方が非常に難しいと思っている部分が確かにあり、絶対に天守閣にはこの時代のこれは要ると、だけどそれを入れながらこっちは要らないのではないかという部分のご意見もいただければありがたい。</p>
伊東部会長	<p>それらは、少し具体的に出てきたところで、これは要るこれは要らないという話をさせていただくことになると思う。</p>

4 総括

伊東部会長	<p>大きなところでいうと、展示のマスタープラン、展示のコンセプトというものをもう少しきちんとしてはどうかというところだった。マスタープランというのはなかなか難しいが、今日そういう指摘が出たので、少しずつ整理をしながら考えていただく必要があると思う。</p> <p>展示のコンセプトというのもいきなり出すのも難しいが、例えば先ほど出させていただいた資料1の下の表のようなものを少し整理する中で、自然と整理できコンセプトが鮮明になることがあるように思った。それをやっていくと、それぞれの館、新しい天守の、魅力がより出てくると思う。</p> <p>それから具体的には視覚障がい者の方や障がい者、外国人、あるいは子どもにもわかりやすい展示をとということで、触ってわかる模型や、城下町や</p>
-------	---

	<p>天守の模型というのも具体的によくわかるような模型を作ってはどうかというご意見もあった。そこで、何を残し、何を削るのかという問題は残っているが、そういう意見が出たということと思う。</p> <p>また、近代の色々な発掘の成果というものもありそういうものも残らず、あるいは軍施設時代の模型という話もあったので、そこも今後ぜひというお話だったので、入れつつどの部分を削るのか検討していく必要があるかと思った。</p> <p>お城に関しては、お城の使い方、谷崎委員からもいただきましたし平井委員長からも具体的にどうやっていくのか、使っていくのかというソフトの面という表現でお話いただいたが、使い方がわかるかどうかというところでご意見をいただいた。</p> <p>西南戦争のものもぜひというご意見もいただいた。</p> <p>各階の内部の復元というご意見もあった。実物大では難しいかもしれないが、イメージしづらいところがあり、上手くわかりやすく表現できることがあるならば、そういう方法をとっていけばいいと思った。</p> <p>そういうことで、少しずつ整理する中で出来ることをきちんとやっていくながら、展示のマスタープランというものも、この委員会も含めて皆で考えていく必要があるだろうと考えます。</p>
--	--

5 その他（事務連絡）

6 閉会